

国立循環器病研究センター病院倫理委員会(第23回)議事要旨

日時 令和2年3月18日(水) 16:30~18:00

場所 研究所棟4階 第15会議室

委員 安田委員長、細田委員、高橋委員、市川委員、藤本(康)委員、高田委員、小田委員、永井委員、長松委員、巽委員、土井委員、塩谷委員、藤本(啓)委員、寺沢委員、福峯委員(15名)

(欠席 吉松委員、畑中委員、田邊委員)

オブザーバー (欠席 中山理事長特任補佐)

事務局 會澤(書記)、萬谷、福本

説明者 黒田医師、福嶋部長、姉川専門修練医、上菌看護師長、畦地医師、河野副看護師長

議題

1. 申請「LVAD 装着中で意思疎通不可能な不可逆的低酸素脳症症例に対する PCPS 装着について」

申請者：移植医療部 医師 黒田健輔、部長 福島教偉

審議事項：終末期治療

審議結果：助言

条件や具体的助言、理由：

1) 患者は終末期であり、2) PCPS の適応がないと認められる。3) 本人の意思は確認できず、その推定も難しいが、家族が代諾者である。非常に難しい事例であるが、引き続き、多職種、複数の専門家による話し合いの場を設け、家族と合意形成に至る努力を継続してほしい。

申請概要：60歳代患者。重症心不全により心臓移植適応として植込型左室補助人工心臓(LVAD)を装着後、呼吸停止により、経皮的心肺補助装置(PCPS)を初回装着したが、低酸素脳症となった。当時から配偶者と子はPCPSを含む全治療を希望していた。約半年後、気道閉塞による呼吸停止で再度PCPS装着した。PCPS離脱し、人工呼吸器離脱予定。重度な脳障害を認め、心臓移植の適応から外れるため、終末期状態であり、PCPSの3回目挿入は医学的適応がないと説明している。しかし、家族は病状を理解しても、1%でも現在と同じ状態になる可能性があればPCPS挿入を希望しており、1分1秒でも長く生きることを切望している。今後の方針について委員会の意見を聞きたい。

2. その他

・ 臨床倫理研修等

1) 2019年度臨床倫理研修会報告

「血液透析の臨床倫理」(2020年1月10日) 参加32名だったが、好評だった。

E-learning 公開中。

2) 関連学会報告

第31回日本生命倫理学会年次大会「医療の変貌と常識の再検討」(2019年12月)

3) 通知「応召義務をはじめとした診察治療の求めに対する適切な対応の在り方等について」

・ 委員の新しい任期：2020年4月1日～2年間

・ 今後の予定：インフォームド・コンセント文書の見直し、子どもの権利の制定、患者の権利に関する職員研修、小児臓器提供における被虐待児除外に関する倫理審議マニュアル(案)継続審議

以上